

(事後評価)

テニュアトラック普及・定着事業
(実施期間：平成 23 年度～令和元年度)

実施機関：信州大学（総括責任者：濱田 州博）

(1) 評価結果

総合評価	制度設計・ 組織体制	実績・目標達成度 (具体的方策、成果等を含めて)			機関として テニュアトラ ック制を継続 する仕組みの 構築
		目標達成状況	平成 27 年度 公募事業で採 用されたテニ ュアトラック 教員の公募・ 選考・採用、 中間審査、自 立的研究環境 の整備及びテ ニュア審査	平成 27 年度 公募事業で採 用されたテニ ュアトラック 教員の研究成 果・実績	
A	a	a	a	a	a

総合評価：A(妥当である)

(2) 評価コメント

国際的研究教育拠点の確立のための優れた研究者・教員の確保と育成を目標として、テニュアトラック制を機関の基盤的人事システムとして導入した。大学改革の一環として全学教員組織「学術研究院」を設置し、学長がリーダーシップを発揮できる一元化した人事体制を整備し、原則として新規採用人事はテニュアトラック制によるものとした。総合医理工学研究科を大学院組織とする理学系、農学系、繊維学系の3学系では本事業に自主的取組を加えて、多数のテニュアトラック教員を採用しており制度は定着している。また、3学系に加え、強みや特色のある研究領域に教員等を集約し、世界的な研究拠点の構築を目指す先鋭領域融合研究群においても新規助教採用人事にテニュアトラック制を実施している。教育経験も重要な育成項目として位置づけたきめ細かな育成環境の中で、テニュアトラック教員の育成が組織的に行われ、テニュアトラック教員の活躍と全学での制度実施の経験を共有する努力が制度普及に繋がる好循環を生んでいる。当該機関の取組は評価できる。

・**制度設計・組織体制**：テニュアトラック制を機関の基盤的人事システムと位置づけ、学長がリーダーシップを発揮できる人事体制の整備と一元的全学教員組織「学術研究院」の設置を行い、新規採用人事にテニュアトラック制を適用していることは評価できる。

・**目標達成状況**：テニュアトラック制の全学的な普及を目指して積極的な努力をしており、全ての未導入学系でも規程を整備した。本事業に多くの自主的取組での採用を加えて、理学系、農学系、繊維学系の3学系では、全ての新規助教をテニュアトラック教員として採用していることは評価できる。今後は人文社会学系への普及を期待する。

・**平成 27 年度公募事業で採用されたテニュアトラック教員の公募・選考・採用、中間審査、自立的研究環境の整備及びテニュア審査**：先進的取組として、女性研究者、外国籍研究者を積極的に採用し、複数のメンターによるきめ細かなケアの下、教育経験も含めた組織的な育成が図られたことは評価できる。しかしながら、応募者の少ない人事公募、人事選考での機関外委員の不在、テニュア審査にメンターが参加している事例については改善を期待する。

・平成27年度公募事業で採用されたテニュアトラック教員の研究成果・実績：採用された教員の多くは積極的な研究活動を行い、優れた研究実績を挙げており、内1人は英国王立化学協会誌のEmerging Investigatorに選出される等、機関の研究活動活性化に貢献している。これらの研究実績は評価できる。

・機関としてテニュアトラック制を継続する仕組みの構築：テニュアトラック制を機関の基盤的人事システムとしており、自主的取組でも多くのテニュアトラック教員を採用し、理学系、農学系、繊維学系の3学系では若手人事の標準制度として制度が定着している。また、未実施の全ての学系においてテニュアトラック規程を策定・整備している。当該機関の取組は継続性のあるものとして評価できる。